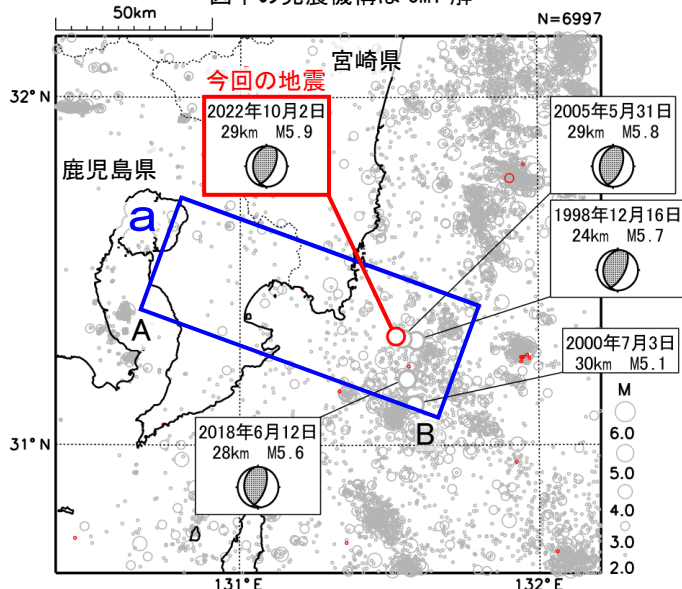
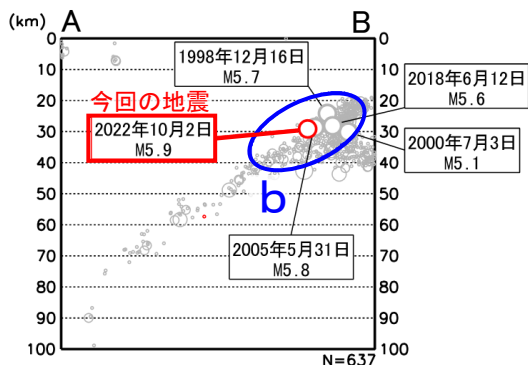


10月2日 大隅半島東方沖の地震

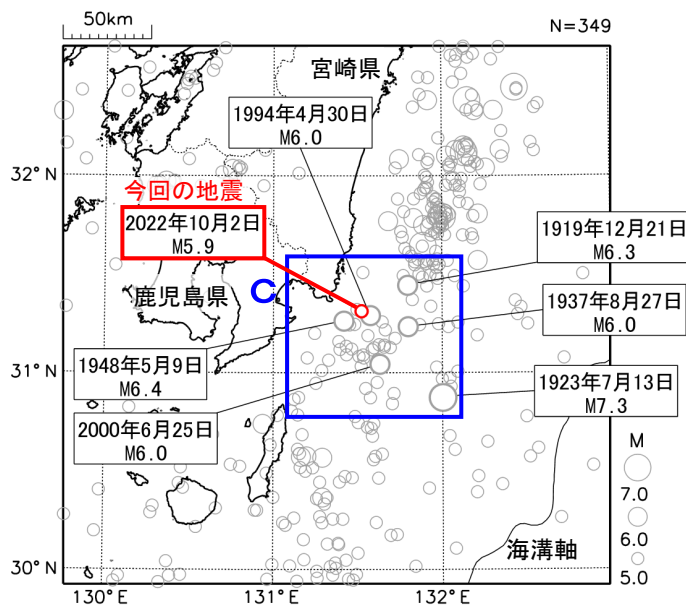
震央分布図
 (1997年10月1日～2022年10月31日
 深さ0～100km、M \geq 2.0)
 2022年10月の地震を赤色○で表示
 図中の発震機構はCMT解



領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図
 (1919年1月1日～2022年10月31日、
 深さ0～100km、M \geq 5.0)
 今回の地震とM6.0以上の地震に吹き出しを付加

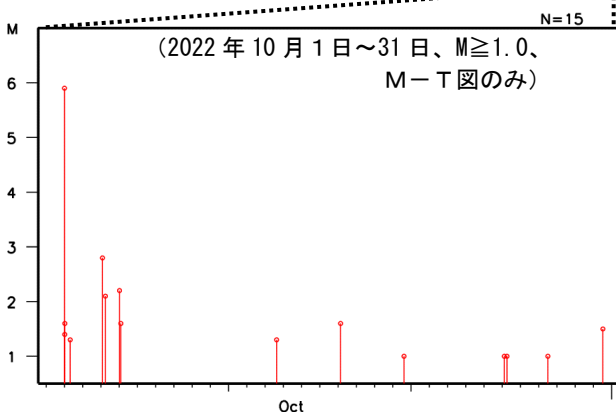
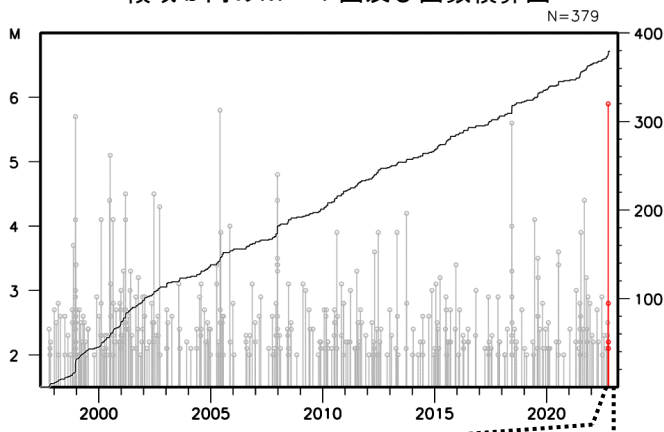


2022年10月2日00時02分に大隅半島東方沖の深さ29kmでM5.9の地震 (最大震度5弱) が発生した。この地震により長周期地震動階級2を観測した。この地震は、発震機構 (CMT解) が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) ではM5.0以上の地震が今回の地震を含め5回発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) ではM6.0以上の地震が6回発生している。このうち、1923年7月13日に発生したM7.3の地震では、鹿兒島県の中種子村 (現在の中種子町) で住家小破27棟などの被害が生じた (被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内のM-T図

